



校長室通信

校長室の窓

第 2 号

平成27年6月12日

萩市立福栄中学校

発行：柳林 浩一

夏季大会の剣道会場での出来事より

6月6日の土曜日の事でした。越ヶ浜中学校の体育館であった剣道の夏季大会（選手権予選）のすべての試合が終わり、体育館の入り口で靴を履いて帰ろうとしたところ、剣道着姿の女の子が「お疲れ様でした。さようなら！！」と声をかけ、さらに立ち止まって実に美しい会釈をして通り過ぎていきました。私は思いがけない気持ちのよいあいさつに感心し、そして、とてもさわやかな気持ちで越ヶ浜中学校を後にしました。剣道着に刺繍してある学校名と名前を見ると、個人戦で上位に入賞した生徒でした。私はこの生徒とは初対面であり、彼女も私の事をよく知らないはずですが。しかしながら、そんな素敵なあいさつがごく自然にできることがすばらしいと思いました。おそらくこの生徒は「いつでも、どこでも、誰に対しても」気持ちのよいあいさつを心がけているのだらうと思います。あいさつがしっかりと身につけているのです。あいさつが本物になっているのです。だから、見知らぬ人に対しても、自然に立派なあいさつができるのです。



私は、福栄中学校に着任する前、明倫小学校に勤めていた関係で、明倫小学校から萩東中学校や萩西中学校に進学した生徒と剣道会場で顔を合わせます。「おはようございます」「こんにちは」とあいさつをする生徒もいれば、会釈をする生徒もいます。この6日の大会の際にも、試合を見ていると、萩東中学校の3年生の男子生徒が私の後ろに正座で座り、「校長先生、おはようございます。お久しぶりです。」と声をかけてきました。このような態度がとれる中学生がいるのです。しっかりしたさわやかな中学生に育っていることを大変頼もしく思いました。この生徒は春季県体で優勝した萩東中学校の団体戦のメンバーの一人です。

上記の二人の生徒に共通することは、あいさつが本当にしっかりと身につけており、しかもそのあいさつが相手の心をとて気持ちよいものになっていることです。相手の心に届くあいさつができているということです。そんなあいさつができる中学生が身近な所にもいるということです。武道の世界では、「心・技・体」ということがとても大切にされますが、この二人の生徒の姿からはその「心」が伝わってきました。そして、「心」が確実に「技」と「体」に大きな影響を与えているなど強く実感しました。